



フラメンコ教室、家庭料理カフェ、お花の移動販売……

専業主婦から好きを仕事につなげました

趣味や興味のあることで収入を得たい……。そう思い描く人は多いけれど、なかなかうまくはいかないものです。40歳を過ぎてから夢を実現した7人の女性たちに、体験談を聞きました
構成◎篠藤ゆり(40、41ページ)、武香織(42、43ページ) 撮影◎本誌編集部



素朴な疑問から、コンタクトレンズの着脱器具を発明!

メデイトレック(株)代表取締役♥齊藤和子さん(61歳)

子どもができたのを機に専業主婦をしていましたが、その6年後、29歳の時に社会復帰。最初はコンタクトレンズのメーカー、その後は眼科の検査員として働きました。眼科に勤めるうち、ソフトコンタクトレンズにしようと思って来院したのに、装着や取り外しがうまくできず、あきらめる方が多いことを知ったのです。せっかくいらしたのに残念だな、とそのたびに思っていました。

5年前、夫にふと「誰もが簡単に着脱できる方法がないって、おかしいよね」とこぼしたら、「そういう器具を自分で作ってみたら?」。その言葉に押され、何かを作った経験などないにもかかわらず、ソフトコンタクトレンズの着脱器具の構想を練り始めたのです。

最初は、100円ショップでシリコンを使った製品を片っ端から購入し、手作業で形を考案。そして仕上げたデザインを土台に、インターネットで見つけたシリコンの会社に試作品を作ってもらおうよう直談判しました。でも、1回の試作に約18万円もかかるのに、なかなかうまくいかない。やっぱり素人には無謀だったのかも……。とあきらめかけた頃、東日本大震災が起きました。私の勤める眼科にも、被災して避難してきた方が来院。「手を洗う水もなく、コンタクトレンズをつけられなかった」とおっしゃるのです。手が汚れ

ていても大丈夫な着脱器具を必ず作らなければ!と、奮起した瞬間でした。結局、5回程度の試作を経て製品ができたため、会社を設立。でも、製品にさらに改良を加えるうち時間が過ぎ、「meruru」と名づけて発売に漕ぎ着けたのは、会社設立から9カ月も後のことでした。おまけにパソコンスキルも流通のノウハウもありませんでしたから、発売後も毎日あたふたしてばかり……。今も夫と2人の社員に助けられっぱなしです。



「meruru」は指で直接ソフトコンタクトレンズに触れることなく、つけ外しができる

いて、やりがいをしみじみと実感しました。いつか、「昔、コンタクトレンズって指で着脱していたんだって!」と驚かれる日が来ると信じて、がんばっています。